

# いまだに続く同和問題

同和問題について、「そっとしておけば差別はなくなる」という考えがいまだに多く残っています。この考え方は「自分に関係ない」という意識を生み、差別や偏見を放置し、差別を助長することにつながります。

また一方で、同和問題に対して誤った認識を持っている人が少なくありません。差別をなくすために、同和問題とはどういうものかを正しく知ることが大切です。

## 同和問題とは

同和地区(被差別部落)、または、同和地区出身という理由で、さまざまな差別を受け、基本的人権が侵害されている社会問題です。明治時代には、「解放令」が出されましたが、今なお部落差別は続いています。



今でもこのような同和問題が起きているよ

### 就職に関する差別(出身地調査)



### 結婚に関する差別



### インターネットへの書き込み



人権啓発に取り組む企業の連絡会が全国各地に組織されています。その一つである東京人権啓発企業連絡会は活動を重ね、様々な人権侵害や差別が社会問題としてあることに気づき、あらゆる差別について取り組もうという活動の方向性を確認しました。

また、会員企業は、差別を放置しているような企業との取引は行わない方針です。

参考:公益財団法人 人権教育啓発推進センター  
機関紙「アイユ」

## 考えてみよう



自分に責任のないことで差別を受けるのは、とても悲しいことだね。

採用は、本人の仕事への適性が能力で決められるべきだよわ。



インターネットなどへの書き込みは、人を傷つけ、差別の拡大につながるわ。差別につながる行為を自ら行わないことが大切だね。



結婚は、ふたりの意思によるもので、出身地で決めることではないよわ。



同和地区出身かどうかではなく、その人自身の人間性や能力を見ることが大切だね。



## みんなのしあわせのために

人権・同和問題についての学習会や研修会に積極的に参加し、正しい知識を身に付け、みんなでお互いの人権を尊重する社会をつくっていきましょう。

うわさや偏見で人やものごとを判断せず、真実を確かめて判断していきましょう。